

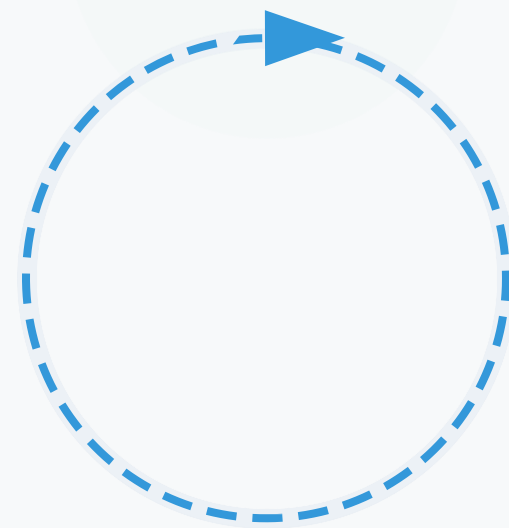
流行的（流行的）共同体主義の 財貨観と道通真境

大巡思想の道通真境の概念を基盤とした
流行的共同体主義の財貨観に関する学術的プレゼンテーション



循環的思想と共同体価値の調和

功利主義 ・ 自由至上主義 ・ 社会契約主義
・ 共同体主義

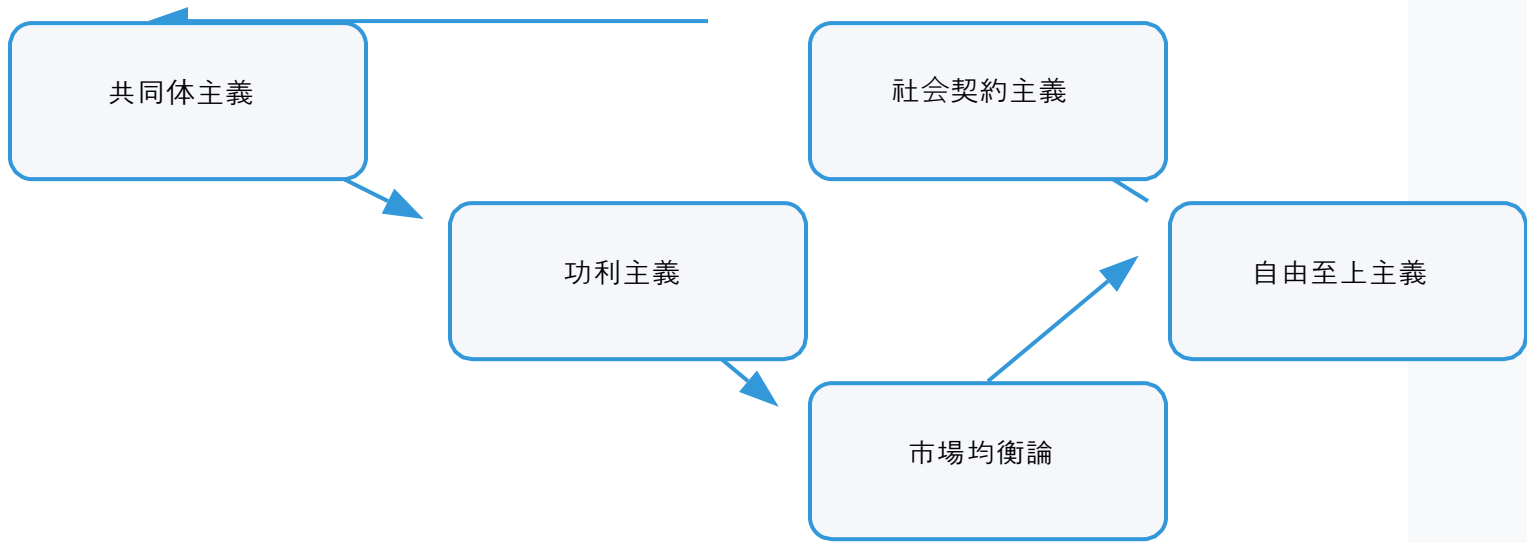


目次

- 1 序論
- 2 共同体主義の理論的構造
- 3 流行的（循環的）共同体主義とは？
- 4 既存の共同体主義の財貨観の限界
- 5 「道通真境」の概念と特徴
- 6 道通真境的な流行的共同体主義の実際
- 7 主要論点の整理および表
- 8 結論および示唆点

共同体主義の理論的構造

循環的構造と理念的流れ



① 道德哲学の位相において共同体主義を基準に見ると、流行的共同体主義は①⑤④②の順に循環する。

共同体主義

共同善（共同善）を重視し、個人は共同体内でアイデンティティを形成し相互作用する

功利主義

最大多数の最大幸福を志向し、結果的効用を重視する

市：
自
効
用

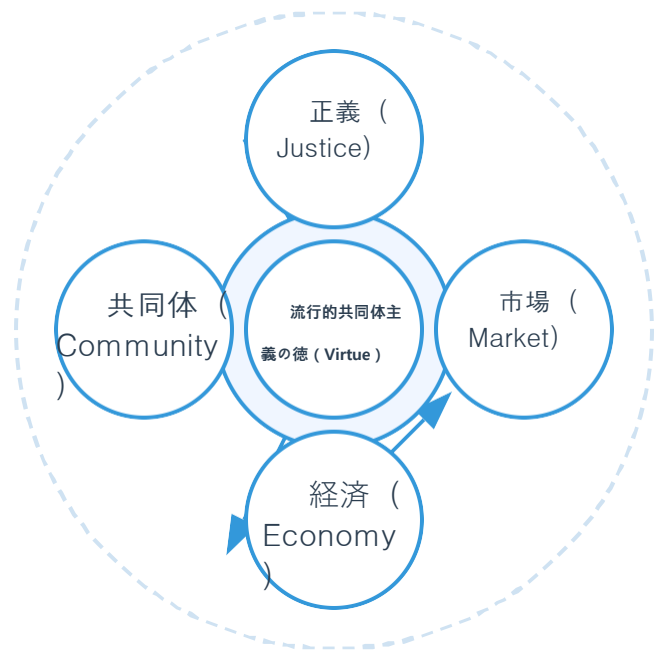
自由至上主義

社会契約主義

流：
一

流行的（循環的）共同体主義とは？

価値の循環と相互補完的構造



循環的構造

各価値が孤立したり対立したりせず、互いに影響を与え合い相互作用する構造。流行（流行）の原理で価値が循環しつつ発展する



相互補完性

多様な価値（経済、正義、市場、徳性）が互いの弱点を補完し強点を極大化する方式で共存。理念的対立を超えた融合的思考を志向



融通性と多様性

現実の状況と文脈に応じて柔軟に変化し適用される実用的特性。単一の価値よりも多様な価値の調和と均衡を重視する

既存の共同体主義の財貨観の限界

共同体主義が直面する実際的问题点と挑戦課題

ただ乗り（裏切り者）問題

共同体の恩恵は享受しつつ義務は回避する少数の裏切り者が、共同体全体の信頼を毀損し、構成員の協力意志を阻害する

多数の被害意識の深化

少数の裏切りによる多数の被害が累積し、共同体内の葛藤と不信が深化し、これが共同体価値観の根本的危機へとつながる

「共同体主義の要点は、少数の裏切りに対する多数の利益をどれだけ報償しうるかという問題に帰結するとき、共同体主義においては、過度なただ乗り者の裏切りによる多数者の被害意識が問題であった…」

制度内効率性の低下

共同体の価値を過度に強調する過程で個人の創造性と効率性が阻害され、これが全体制度の競争力と持続可能性の弱化へとつながる

現実性の不足

理想的な共同体価値は、実際の経済環境と衝突する際に現実性が落ち、特に多様な価値観が共存する多元主義社会において適用の限界が明白である

共同体主義の財貨観の循環的限界



必要な代案：ただ乗り問題を解決し、制度内の効率性と現実性を高めつつも共同体の卓越性を保存しうる新たなパラダイムが求められる → 道通真境に基づく流行的共同体主義の財貨観

「道通真境」の概念と特徴

体系的相互作用と循環を通じた共同体発展の原理

道通真境の定義

道通真境とは、二つ以上の体系が互いに流行的に作用しつつ循環となる概念を意味する。自然と人間、神明と人間、精神と物質の間の相互作用的循環を通じて、共同体の秩序と発展を図る。

体系的相互作用

道通真境は、共同体内の多様な主体間の活発な相互作用を通じて疎通し、変化し、発展する過程を重視する。これは単純な一方向的秩序ではなく、相互有機的連携を基盤とする。

「天地に神明が満ちているゆえ、たとえ草の葉一枚であっても神が去れば枯れ、土を塗った壁であっても神が移り去れば崩れるなり。」

『典経』教法3章2節

共同体の秩序と発展の調和

道通真境においては、共同体の安定的秩序と持続的発展が互いに対立するのではなく、流行的に相互作用しつつ循環的關係をなす。これを通じて共同体主義の限界を克服し、実質的な共同善を具現する。

「西教は神明の薄待が甚だしいゆえ、あえて成功しえぬであろう。」

『典経』教法1章66節

陰徳（陰徳）と共同体の卓越性

道通真境においては、目に見えない「陰徳」が共同体の実質的卓越性を持続させる核心と見る。目に見えない神明との関係を通じて、人間と自然の共同体関係を回復し維持する。

「上帝は常に飯粒一つでも地に落ちればそれを拾われ、『やがて飯を求める声が九天に届くときが来るのに、どうしておろそかに扱えようか。一粒の穀物であっても天が知るなり』と仰せられた。」

『典経』教法1章13節

道通真境的な流行的共同体主義の実際

各理念別の共同体の危機と道通真境を通じた克服方策

理念	共同体の危機	道通真境を通じた共同体の回復	『典経』の関連の一節
自由至上主義	危機不感症	自由主義者も環境危機に対応する共同体を模索	「天下の蒼生が尽き滅びる境地に迫っているにもかかわらず、少しも悟らず、ただ財利にのみ目が眩んでいるゆえ…」(教法1章1節)
社会契約主義	現実的な環境危機	自然と人間の契約回復を通じた自然—人間共同体の回復	「やがて飯を求める声が九天に届くときが来るのに、どうしておろそかに扱えようか。」(教法1章13節)
功利主義	弱肉強食による均衡の破壊	神明と人間の共同利益を模索するための共同体の回復	「西洋人マテオ・リッチ(利瑪竇)が東洋に来て地上天国を建てようとしたが…」(教運1章9節)
共同体主義	無神論の副作用	陰徳を持つ存在との共同体の回復	「天地に神明が満ちているゆえ、たとえ草の葉一枚であっても神が去れば枯れ…」(教法3章2節)

i 道通真境の流行的原理は、各理念が持つ共同体の危機を相互補完的に克服させる。自然と人間、神明と人間の間の循環的關係を回復することで、既存の共同体主義の限界を超え、真の共同体の卓越性を保存する。

結論および示唆点

流行的共同体主義の財貨観が現代社会に与える含意

流行的財貨観の核心的示唆点



循環的相互補完性

共同体主義、功利主義、自由至上主義、社会契約主義などの理念が相互作用して補完されるとき、現代社会の財貨観が調和的に発展



効率性と現実性の結合

道通真境の接近は、共同体主義の理想と制度内効率性を実質的に結合する卓越した方法論を提示



ただ乗り問題の解決

流行的循環原理を通じて、共同体内の少数の裏切り者問題と多数の被害意識を建設的に解消

現代社会への適用時の考慮事項



自然—人間共同体の復元

環境危機に対応する人間と自然の間の新たな契約モデルとして、流行的共同体主義の活用が可能



伝統と現代の調和

東洋の伝統思想（神明、陰徳）と西欧の共同体主義の概念を有機的に結合した統合的接近が必要



制度的融通性

互いに異なる観点が排他的ではなく相補的に作用する柔軟な制度設計が重要

最終結論

道通真境に基づく流行的共同体主義の財貨観は、現代社会の経済・環境・共同体の危機を克服するための重要な哲学的土台を提供する。自然と人間、個人と共同体、理想と現実、精神と物質が相互に流行しつつ調和的に循環する観点は、既存の理念の限界を補完し、持続可能な共同体の卓越性を回復することに寄与しうる。